

首里城案の内整備（その2）工事

【施策の概要】

現在未開園区域内にある高木を今度整備する区域に移植し再活用することで材料費の縮減を図ります。また葉張りのある樹木を利用することで景観に配慮した植樹に努めることが可能となります。
また未開園区域への一般客の立ち入り防止としてフェンスの設置を既設発生品を再利用し、材料費の縮減を計りました。盛土についても構内の仮置き場から土を流用することでコスト縮減を図りました。

【施策のポイント】

・今回整備範囲については首里城内においては「聖域」に当たる部分であり往時雰囲気を出すためには完成時点での鬱蒼とした景観を作ることから出来るだけ、大きく葉張りのある樹木が必要でした。現在国内にある高木を利用することにより、材料費の削減が図られるだけでなく、材料手配による期間の短縮が可能です。
更には葉張りの大きい状況のまま植樹することで「聖域」の景観配慮が可能になります。

また、未開園区域への一般客の立ち入り防止としてフェンスの設置をしますが、フェンス前面に生け垣を設置するため見栄え的な配慮があまり必要にならないことで、既存のフェンスを再利用し材料費の削減を図りました。盛土材料については、未開園区域内の仮置き場から土を今回整備区域で使うことにより材料費の削減を図ります。

これにより樹木新植、フェンス新設、盛土購入による施工に比べ約4.8%の工事コストの削減が図られました。

【施策の実施状況・イメージ図】

工事数量：高木移植 25本	単価差：52,000円
：鋼製フェンス流用 55m	：20,000円
：発生土流用 750m ²	：1,000円
縮減額：(25×52,000+55×20,000+750×1,000)×1.46(経費)÷4,040,000円	(4.04百万円縮減)



(移植対象樹木)



↑ (移植により再利用する樹木を示す。)
(既存フェンス流用イメージ) →